

高校演劇春の全国大会 県内初開催

晴れ舞台で 最高の演技を

14日から倉敷

全国から高校演劇部のトップクラスが集い、発表する「第4回春季全国高等学校演劇研究大会」が14、16日、倉敷市中央の同市芸文館で開かれる。県内での開催は初めて。地元から出場する中国地方代表の操山高(岡山市中区浜)と、開催県代表の津山東高(津山市林田)は、「晴れ舞台で最高の演技を」と練習に励んでいる。(石井李佳)

地元から出場 操山、津山東 練習に熱

全国高等学校演劇協議会(東京)の主催で2007年に東京が始まり、地方開催は今回が初めて。協議会加盟の214校の中から予選を勝ち抜いた全国9地方代表校と開催代表1校が出場する。操山高演劇部は2年ぶり

の出場。創作劇「時には星」に再び挑戦する。親同士の再婚に悩み、反発し合う女子高生二人が、友人や教師とのやりとりを通じて次第に心を通わせていく。



本番に向け練習に熱が入る操山高演劇部のメンバー＝操山高

「遠目にきれいで、実はゴツゴツしたり、衝突を繰り返して大きくなった。そんな星に二人の姿を重ねました」と脚本担当の2年岡田英里子さん(17)。

主役を演じる部長の2年林密思さん(17)は「全員で意見を出し合い、何度も台本や演技を改良した。最高の芝居を見せたい」と意気込む。

「くずのように」に取り組んでいる。それぞれの成果を見てほしい」と話す。

県大会最優秀の津山東高は、津山市出身の作家・重松清原作「まゆみのマーチ」で初出場する。顧問の高森章教諭(60)は「リアルな会話や動作を課題に、粘り強く練習してきた8カ月間の成果を見てほしい」と話す。

大会は3日間とも午後2時開演。入場無料。操山高は14日午後3時半、津山東高は同日午後6時半から上演予定。